（桜川市行政評価システム）

令和元年度　　事務事業評価表　A（　平成30年度　の実績評価）

記入年月日　平成 31 年 4 月 15 日

事務事業名	まかべ幼稚園バス運転委託事業	事業区分 新規/継続	継続	担当 事務事業№	010101000101
		単独/補助	単独	所属課	090133 まかべ幼稚園
政策体系 総合計画の施策名	0101 子育て支援及び少子化対策	主要事業			
政策体系 政策名	01 子どもから高齢者まで健康で共生のまちづくり	市長マニフェスト			
政策体系 施策名	01 子育て支援及び少子化対策	未来ＰＪ事業		グループ	まかべ幼稚園グループ
政策体系 手段名	01 ①子育ての支援体制の充実	合併建設計画事業			

財務会計上の位置付け

予算科目	会計	款	項	目	事業	細	
	01	10	05	01	03	00	一般会計 まかべ幼稚園事業

事業期間：単年度繰返し　（　年度～）

↳ 期間限定の場合、総投入量を（3）投入量の右側に記入

法令根拠

【Do】 1．事務事業の現状把握（その1）

（1）事務事業の概要

手段

①事務事業の概要（事務事業の全体像）

【事務事業の内容】
園児を送迎するための通園バス２台の運転業務委託。
まかべ幼稚園に登降園する園児を送迎する通園バスの運転業務を委託している。また、平成２５年度から職員数の減少により、通園バスの添乗についても業務委託している。

②担当者が行う業務の内容・やり方・手順

通園バス２台を市内の２業者に委託した。２台のバスは、登降園２便、４往復で運行を行った。

（2）事務事業の手段・対象・意図と各指標、指標値の推移

①手段（担当者の活動内容）	④活動指標（活動量を表す指標）	単位	29年度（実績）	30年度（実績）	01年度（計画）	02年度（目標）	03年度（目標）
【事業費の内訳】 ２台の年間委託料（添乗業務含む） 5,000千円	送迎バス便数	便	8.00	4.00	2.00	0.00	0.00
	送迎委託バス便数	便	8.00	4.00	2.00	0.00	0.00
	走行距離数	km	250,000.00	125,000.00	62,500.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
②対象（誰、何を対象にしているのか）	⑤対象指標（対象の大きさを表す指標）	単位	29年度（実績）	30年度（実績）	01年度（計画）	02年度（目標）	03年度（目標）
在園児	園児数		51.00	32.00	9.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
③意図（この事業によって対象をどう変えるのか）	⑥成果指標（対象における意図の達成度を表す指標）	単位	29年度（実績）	30年度（実績）	01年度（計画）	02年度（目標）	03年度（目標）
園児の安全な登降園が確保できる	送迎バス利用園児数	人	51.00	32.00	9.00	0.00	0.00
	送迎バス事故件数	件	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	送迎バス利用率	%	100.00	100.00	100.00	0.00	0.00

（3） 投入量（事業費）の推移

投入量			29年度（実績）	30年度（実績）	01年度（計画）			期間限定 総投入量
事業費 財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0			0
	県支出金	千円	0	0	0			0
	地方債	千円	0	0	0			0
	使用料・手数料	千円	0	0	0			0
	その他	千円	0	0	0			0
	一般財源	千円	6,568	6,255	3,430			0
事業費計（A）		千円	6,568	6,255	3,430			0
正規職員従事人数		人	0.00人	0.00人	0.00人			

事業費の内訳

30年度事業費 実績（千円）				01年度事業費 予算（千円）			
13 委託料	5,000			13 委託料	2,797		
14 使用料及び賃借料	1,255			14 使用料及び賃借料	633		
		合　計	6,255			合　計	3,430

（4）当該年度の実施内容

※下記に該当する事業は、年度ごとに事業内容を記入する

・主要事業
・市長マニフェスト
・未来ＰＪ事業
・合併建設計画事業

01年度の事業内容	02年度の事業内容	03年度の事業内容

事務事業名	まかべ幼稚園バス運転委託事業	事務事業№	10101000101	所属課	まかべ幼稚園

【Do】　1．事務事業の現状把握（その2）

（5）この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開始されたのか？　開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?

昭和５２年４月の創立以来、旧真壁町全域を対象に３台のバスを運行してきた。その後正規職員の退職等で減員となり２台のバスについて運転業務を委託に切り替えた。平成３１年度より１台での運行となる。

（6）この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者）からどんな意見や要望が寄せられているか?

子どもたちの登降園における安全確保が重要であり、園児送迎バスは保護者等による送迎の負担を軽減するばかりでなく、防犯上も安全である。

（7）前回の事務事業評価に対する改革・改善の具体的内容

現状維持	

【See】　2．評価の部　　＊原則は事前評価。

評　価　項　目

目的妥当性

①政策体系との整合性　（この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？）

結びついている	まかべ幼稚園の目指す教育方針に合致している。

② 公共関与の妥当性　（なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？）（法定受託事業はその名称）

妥当である	幼稚園創立時、幼稚園の運営方針がバスによる園児の送迎を挙げており、適正である。

有効性

③ 成果の向上余地　（成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？）

向上余地がない	安全登降園をめざし成果を上げており、今後の向上の余地はない。

④廃止・休止の成果への影響　（事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？）

影響有	今後この事業が廃止になった場合、保護者の負担も増加するので、大きな影響が出ることも考えられる。

⑤類似事業との統廃合・連携の可能性　（類似事業や統廃合の可能性がありますか？（市以外の取り組みも含む））

（他に手段がある場合）⇨ 具体的な手段、事務事業名

余地がない	園の運営方針から考えても、最も適切で安全な通園手段であるので、他の手段はない。

効率性

⑥事業費・人件費の削除余地（成果を下げずに事業費を削除できないか？やり方を工夫して延べ業務事業を削減できないか？）

削減余地がない	送迎の距離の減少や、運行台数に変更がない限り、事業費の削減はできない。

公平性

⑦ 受益機会・費用負担の適正化余地　（事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？）

公正・公平である	在園児が対象であり、公平公正である。

【Plan】　3．評価結果の総括と今後の方向性（次年度計画と予算への反映）

（1）　1次評価者としての評価結果

①目的妥当性	■	適切	□	見直し余地あり
②有効性	■	適切	□	見直し余地あり
③効率性	■	適切	□	見直し余地あり
④公平性	■	適切	□	見直し余地あり

（2）　全体総括（振り返り、反省点）

幼稚園バスの運行業務は、目的がはっきりしており重要な業務であるが、園児数の減少に伴い運行コースを見直し、バス台数を減らしていく。

（3）　今後の事業の方向性

□ 終了　■ 継続 → □ 改革改善を行う →（複数回答可）
□ 目的の再設定　□ 効率性の改善
□ 有効性の改善　□ 公平性の改善
□ 統廃合ができる　□ 連携ができる
□ 廃止　□ 休止　→ ■ 現状維持

（4）改革・改善による期待成果
（終了・廃止・休止の場合は記入不要）

		コスト 削減	コスト 維持	コスト 増加
成果	向上			
	維持		○	
	低下			

（5）　改革，改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策

（6）事務事業優先度評価結果

成果優先度評価結果	⑨
コスト削減優先度評価結果	

【Check】　4．確認及び改革改善に向けての指摘事項

（1）　課長評価

課長確認後の評価：A

A：継続（現状維持）　C：終了、廃止、休止
B：継続（改革改善を行う）　D：2次評価へ提出

（2）　部長確認及び評価　（課長評価により、C、D判定及び確認が必要な場合）

確認欄